

## 現地会議 in 岩手

第2部 全体会議 16:15-17:10 (会場：学生ホール棟3階 学生食堂)

被災地に今必要なこと

～復興を視野に入れて～ 現地のニーズと支援者のマッチングタイム

---

栗田

それでは第2部を開始させていただく。各テーブルにはA3白紙とマジックを用意しているので、団体の発表を聞きながら、これからの復興に向けて必要なことをお感じになった言葉でお書きいただきたい。それらの言葉はJCNでまとめて、アピールとして使わせていただく予定である。

それでは発表は最初こちらから指名させていただくので、1団体5分程度で現状報告と今後の展望についてお話させていただきたいと思う。まずは、特定非営利活動法人アイディングの甲山さんから話を伺いたい。

特定非営利活動法人アイディング 甲山

我々は災害ボランティアではなく、もりおか市民活動支援室の運営、もりおかNPO連絡協議会の事務局などを務めている団体である。被災地で直接支援しているわけではないが、盛岡市内でもいろいろな団体が災害支援を行っている。この度の災害をキッカケに災害支援を専門に始めた団体もあれば、それぞれ別の目的を持っていながら、災害支援の何かできることがあればという団体も多くあり、団体のつながりが掛け算となって大きな力に出来ればと思っています。昨日も市内30団体程度をお呼びして意見交換を行った。県社協が災害支援団体連絡会議のMLの運営などもさせていただいている。やはり、横のつながり、連携がそろそろ必要だという声が挙がっており、必要だと感じる。我々は災害についての特別なノウハウや知識はないが、中間支援として皆さまの活動をどうつなげて、どう一般の市民とつなげていくか、みなさまの話を聞いて活動のヒントにさせていただきたい。

栗田

ありがとうございました。

市民を巻き込んだ横の連携が大事だというお話だが、その点についてご意見などあれば。

しんぐるまざあず・ふおーらむ・福島 石田

直接的な災害支援ができる団体ではないのですが、震災後、福島の皆さんから、女性のためのホットラインという相談を受けています。震災で残念ながら死別された方は多く、その状態になったことを外に言えず、避難所で過ごされている方がおられる。各地の皆さまのお力を借りて、私どもでできる支援をさせていただければと思う。

栗田

ご指摘のとおり、心のケアの問題は非常に深刻な状況であり、PTSDなどケアの大切な時期に入った。そして、ボランティア側も被害の状況を生々しく聞いたボランティアが調子を崩すという話もある。そういうことについて、アドバイスいただける方はおられないか。

山崎

しんぐるまざあず・ふぉーらむさんの活動はネット上で拝見している。子供さんを亡くされた方、両親もしくはどちらかを亡くされた方など多様な熾烈な別れを経験されている。こういった方々のため、心のケアをされているネットもできつつあるので、ご参考いただきたい。これから3ヶ月目の厳しい状況に入り、PTSDが顕在化してくる。支えあっていけるような情報の交換と支援の仕組みを作ってまいりたい。東北大学のほうにだいぶん拠点が出来ていると伺っている。

栗田

次の方に移りたい。特定非営利活動法人風・波デザインの丸山さんをお願いしたい。

特定非営利活動法人風・波デザイン 丸山

我々は紫波町でまちづくりのコーディネーターを養成することをテーマに活動している。また、盛岡駅西口アイーナ6階NPO活動交流センターの運営の委託を受けており、本日はそちらで行っている「復興バザー」の紹介をさせていただく。6月19日10:00-15:00で、内陸部の方々が持ち寄ったものの販売した売上を被災地に寄付し、被災地からは出展、産直を実施いただき、利益にしようという趣旨のバザーである。もう1点、7月3日11:00-15:00にNPO活動交流センター「N活カフェ」と題し、災害支援活動者の報告会、全体の座談会を行い情報共有の場を企画している。

栗田

バザーや情報交換など、ひとの集う場をつくるという活動をされている。同じようなバザーや、祭といった取組みを企画されている団体あればアピールしていただきたい。

江刺ボランティア連絡協議会 菅野

これまで全ての催事を自粛されてきたが、復興をテーマに演芸会を実施した。大変好評であった。風化を防ぐためにも、催事を行い、まだまだ大変だということをアピールすることが大事だと思う。奥州市江刺区では8月の第1土曜日に市の夏祭、区の夏祭と合同で「夢あかり」という行事を予定している。復興のテーマで取組みたい。

遠野まごころ 多田

絶対に風化させてはいけない、忘れられてはいけないということで「三陸海の盆」を行う。関東では福島ニュースばかりである。三陸を忘れられては困る。ただ、現地は厳しい状態であり、祭という精神状態になるかどうか、場所によっても違う。出来ることをみんなでまとまってやるということ。緊急支援のネットワークで、ある程度県や市町村などで境界があった。これからは境界のない復興支援ネットワークが必要だと考えている。これまでいろいろな境界の縦割りでやってきた部分があるが、それをあえて外してみんなで復興を考える時期だと感じている。

栗田

感情の問題もあって、できるか、できないかは地域によって差がある。ただ、復興につながるのであれば、できることからやり、準備する側にはみんなで取組み、そこに境界があってはならないというお

話であった。

それでは続いて、いわて連携復興センターの鹿野さんからお話を伺いたい。

いわて連携復興センター 鹿野

釜石市でまちづくりの活動している@リアス NPO サポートセンターの代表をしている。被災者ではあるが、全国から集まる支援者を見て、支援物資の配送などから活動を始めた。本業はお菓子屋で、店が被害を受けたので、この先2-3年はNPOをやろうと頑張っていたら、支えてくれる県内の仲間もいて、全県での活動を作っていこうということで立ち上がったのが「いわて連携復興センター」である。

大きな柱は2つ。1つはレスキューと救援活動は行わず、今後の復興に向けてもう一度自分の街に責任をもって立ち上がり、まちづくりに関わるという人と国や自治体、民間の助成期間をつなぐ。2つ目は阪神・淡路や中越の復興に携わった皆さんのアイデアを借りて、コミュニティの再生に取り組むということ。いろいろな所に輪が広がり、現在、まだ出来たものはないが、準備を着々と進めている。

被災者として一番思っていることだが、復興の主役は被災者であり、被災者が復興に携わらなければその街の未来はない。復興に向かって自分たちの街に責任を持つという姿勢で参加してもらえるような仕組みを皆さんに作っていただければうれしい。子供たちに「自分たちの作った街だよ」と責任をもって受け渡せる街を作りたい。

これから3ヶ月を迎える上で、現実に引き戻されざるをえない状況で、今のところ笑顔で迎えてくれる。この気持ちを切らさないように、下から支えて上げていただきたい。今後も長い支援をお願いしたい。

栗田

素晴らしいご提案をありがとうございます。我々にも参考になる意見をいただいた。関連して何かあればお願いしたい。

コープあいち 岩本

住田町に入っている。いろいろな生協が各被災地に支援で来られているが、生協同士で情報共有できていない場合がある。各地域に入っている団体が持ついろいろな情報を共有し、宮城県とは違って、内陸部から沿岸部に東西に支援という連携が岩手では大切だと感じている。つながることを意識してつながり、地域の皆さんが主体であることを忘れないで活動したいと現地に入っている一人として感じている。

盛岡 YMCA 宮古ボランティアセンター 池田

我々のもとにも支援物資はかなりあるが、宮古市の経済効果が上がらないと品物は行き届かないと思う。いま、物資を送っていただく場合、これから買って送られる場合は現金でお送りいただくようお願いし、宮古の市場で品物を買っている。宮古にお金が落ちることが生活を支援することになるかと思うので、そういう部分を支援していきたい。

みちのりホールディングス 柴田

岩手、福島、茨木をエイリアにするバス会社である。被災者かつバス会社としてできることを考えている。被災者、ボランティアの足となるいろいろご支援させていただいている。ボランティアでがれきを撤去するだけではなく、首都圏などから来ていただく方々に、岩手の魅力を感じ取り岩手のファンを作るためのボランティアツーリズムを行っている。遠野のふるさと村に宿泊するツアーを実施したところ、

好評で、毎年通いたいという声があった。ボランティアを通じて、復興後の観光産業を作る上で重要だという想いである。ボランティアと観光についてアイデアや情報をお寄せいただきたい。  
また、現在、東京の会社を回り、会社単位でボランティアを派遣しようという熱意が高まっているので、もし受け入れたいといったアイデアがあればお知らせいただきたい。

首都大学東京准教授・弘前大学非常勤講師 山下

弘前大学人文科学ボランティアセンターでは野田村に入っています。活動の特徴としては、弘前市役所に職員を派遣してもらい一緒に活動している。大学のボランティアセンターだけではなく、市民のボランティア団体もあり、一緒に弘前市として野田村を応援しようとしている。6月10日に弘前大学で発表会を行う。興味ある方は後ほどチラシをお持ちいただきたい。

辻元議員がおられるので、せっかくなので、対向支援ということで議論されているが、すでに自治体があるいろいろな形に入っているので、自治体の応援活動と市民の応援活動をつなぐようなことを考えていただきたいなと思います。青森や秋田の支援をもっと被災地につないでもらいたい。尻込みして動いていない。自治体は入っている。このあたりの動きを加速させて、息の長い支援ができるのではないかと思っている。よろしくお願ひしたい。

岩手県社協 田山さん

本当にみなさん、ご支援ありがとうございます。非常に広い範囲が被災していて、しかし全国の皆さんに応援していただいて、現地の人間として非常にありがたい。現地の人達にも伝わっている。県のボランティアセンターとして、ボラバスも出しているが、ボランティアにはボランティアセンターとしては赤色のステッカーを張ってもらって地域に出てもらっている。現地でのサロンの動きや地域に入る動きなど、もともと社協が得意な動きについても、皆さんの協力を得ながら進めていきたい。

3ヶ月経つので、支援者のみなさんも少し無理しないで、気持ちを長く持っていて、岩手を応援していただきたい。こうやって顔を見ながら「話しっこ」できる場は本当にいいなあと感じている。今後ともどうぞよろしくお願ひしたい。

岩手県 NPO・国際課 畑山

官民協力を支援するモデル事業助成金の紹介。官民協力について最高 1000 万円、10 分の 10 でご支援させていただく。震災復興関連で申請をお待ちしている。辻元議員もおられるので、お願ひである。2 年間で 1 億 4 千万では足りないと感じているところであり、増額をお願ひしたい。

辻元補佐官

しっかり受け止めた。

こちらからも県にお願ひをしたい。震災を契機に NPO 立ち上げようという方が多くおられると思う。申請後、通常なら 4 ヶ月かかるが、従来の半分の 2 ヶ月で設立に出来るようお願ひしたい。まもなく NPO 法も改正になり、寄付を集めやすい制度とすることに超党派で合意している。なんとか今月中には成立させたいと考えている。

栗田

ありがとうございました。今日の JCN の参加団体のご報告として、以下の 5 点に集約されると考える

が、みなさんにお話ししたい。

- ・ 復興は長期にわたること
- ・ ボランティアはまだまだ必要なこと
- ・ 今日までそれぞれが全力で緊急救援期の対応に尽力してきたが、今後は「ヨコの連携」を大切にしていきたいこと
- ・ 復興の主役は被災者で、被災者自身が自分のまちに責任を持つよう、外部支援者はコミュニティの再生、イベントやまつりを含むまちづくり、そして地元が経済的にも潤うような後押しをしていくこと
- ・ 垣根のない連携で、今後も智恵を出し合うこと

(一同了承)

このことはJCNに登録されている526団体に報告させていただくとともに、是非、皆さまにもJCNのMLに登録していただいて、これからは被災地と支援者をつなぐことを意識して、これからみなさんと一緒に頑張っていきたい。

それでは最後に、代表世話人の山崎よりご挨拶申し上げます。

## 閉会挨拶

---

山崎

みなさん本当にありがとうございました。心は一つであることを確認しました。地域に根ざした活動がこれから横につながり、生活支援など次のステージに入ります。息長く、私たちは決してみなさんから離れることなく、みなさんで頑張っていきたいと思います。

以上